

『講義や学生同士のディスカッションを通して自身の視野が広がる』

看護師 5 年目の頃、部署の教育や学生指導に携わる機会が増え、教えることの難しさと同時に楽しさを感じるようになりました。看護教育への関心が高まり、学びを深めたいと思ったことが進学を決めたきっかけです。宮城大学は母校であり、学部生の頃に親身に指導して下さった先生方の印象が強く残っていました。大学院説明会でも温かく話を聞いていただき、この環境で学びたいと感じ受験を決めました。

病棟勤務を続けながらの大学院生活には大変さもありましたが、講義や学生同士のディスカッションを通して新たな視点を得ることができ、視野が大きく広がりました。日々の看護実践や後輩指導において今までは見えていなかった部分が見えるようになるなど、より俯瞰して物事を分析する力が身についたように感じ、自分の幅が広がったように思います。

大学院進学には確かに大変さもありますが、それ以上に得られるものは大きく、看護師としての自分を見つめ直す貴重な機会になりました。このタイミングで進学して本当に良かったと思っています。

(看護学研究科博士前期課程R8 年 3 月修了)

『経験的に捉えていた事象を理論的な視点で考える術を学べる』

私はがん専門病院で看護師として経験を重ねる中で、臨床で感じた疑問や課題について探究したいと考え、大学院進学を決意しました。

大学院の授業では、経験的に捉えていた事象を理論的な視点で考え、より深く事象を理解していく術を学べました。また、研究論文の読み方や研究方法論、必要とされる倫理観、多職種と協働していく社会性・協調性を修得することができました。自身の専門分野だけでなく、他の院生のゼミに参加することで、看護学が様々な学問と結びついており、看護支援方法の探究には幅広い視点と知識が必要だと実感しました。研究を推し進める中では困難も多くありましたが、先生方の親身なご指導と同じ目標を持つ院生の仲間に支えられ、最後まで研究に向き合うことができました。

大学院 2 年間での学びと新たなご縁は、今後の人生において大きな財産だと感じております。今後は大学院で修得した学びを臨床に還元できるよう、精進して参りたいと思います。

(看護学研究科博士前期課程R8 年 3 月修了)

『多様な講義を通し知識と視野が広がる』

看護専門学校にて教員として授業を行う中で、より質の高い教育を実践したいという思いが強まり、大学院進学を決意しました。大学院では多様な講義を通し知識と視野が広がる一方で、研究では言葉の意味に悩み、自身の考えをうまく言語化できず苦勞する場面も多くありました。また、研究論文の熟読にも苦戦しましたが、講義やゼミで学生同士クリティークを重ねる中で、苦手意識を克服することができました。さらに、研究を進めていく中で、新たな知見を見出す楽しさや探究することの面白さも感じられるようになりました。

日々の学びの中で挫けそうになることもありましたが、先生方の温かなご指導、そして仲間や家族の支えによって乗り越えることができました。大学院での 2 年間は、多くの学びと出会いに満ちており私にとって大切な宝物です。この経験を通し大きく成長できたと感じています。ここで得た学びを、今後の教育と研究に活かしていきたいと思います。

(看護学研究科博士前期課程R8 年 3 月修了)